



		機能	メリット
一般	スクリーンキャプチャ	自動的に画像をキャプチャし、正確なジオロケーションとともに保存	キャプチャーボタンを押して、対象エリアを歩くだけです。キャプチャが保存されると、PIX4Dcatchが自動的に画像を記録し、点群を生成します。アプリ画面上で表示される点群のライブプレビューとライブメッシュが助けとなり、包括的で正確なキャプチャをサポートします。高度な設定を行いカスタマイズすることで、さらに最適な結果を得ることが可能です。
		キャプチャの一時停止と再開	
		キャプチャの保存と中止	
		キャプチャ中のライブプレビュー	
		キャプチャ中のメッシュ表示	
		キャプチャ終了時の品質レポート	
キャプチャ	キャプチャ設定	画像オーバーラップやデバイスの姿勢のカスタマイズ	
		警告音メッセージ	
		オートフォーカス(自動フォーカス)	
		低画質画像のスキップ	
設定	ビュー	キャプチャ中に画像の重なりを表示	
		カメラビューの表示	
		特徴点の表示	
	メッシュ	再構築メッシュの表示	
		メッシュの保存(OBJ形式)	
		メッシュの種類と色の変更	
		メッシュとカメラオブジェクトの色を変更	
	その他	動画の保存	
	プロジェクト	プロジェクトダッシュボード	プロジェクト一覧
			ステータスでプロジェクトを絞り込む
プロジェクトの検索			
複数プロジェクトの選択と削除			
ドラッグダウンによるプロジェクトパネルの更新			
3Dビュー		取得した点群の3Dビューを表示	
		RTK、GPS、GCP、MTP用に異なるタグを有効化	
		画像ごとのRTK精度を3つのレベルに分類：最適(Optimal)、中(Reduced)、低(Low)の3つのレベルに分類	
		RTK精度、カメラ、点群、メッシュ、3Dモデルのセンタリングを切り替えてビューをカスタマイズ可能	
		テクスチャの計算	
		PIX4Dcloudで処理された点群の3Dビューを表示	
		キャプチャまたは処理されたすべてのプロジェクトを簡単に管理できるビジュアルインターフェースを実装されています。RTK、GPS、GCP、MTPなどのさまざまなタグを含むダイナミックな3Dビューアでプロジェクトを表示し、各キャプチャのRTK精度も把握できます。プロジェクト内にGCPを直接追加することで、絶対精度を高めることができます。強力なプロジェクト管理ツールを使用して、必要に応じてプロジェクトや画像を検索、フィルタリング、複数選択、変更もできます。	
画像		画像一覧	
		複数画像の選択と削除	
プロジェクトビュー	作成日		
	画像取得した座標系		
	画像枚数		
	詳細	RTK精度信頼度(%)	
	平均水平・垂直精度		
オプション	使用ストレージ		
	プロジェクト名の変更		
	プロジェクトの削除		
手動GCPマーキング	ポイントコレクションの選択		
	画像にマークを追加		
	マークの保存		

ツール	ポイントマネジメント	定義された座標系(水平と鉛直)でポイントコレクションを作成する	プロジェクトの精度を高めるGCPとしてや、または座標の観測として使用するための点の取得と計測
		サイトローカリゼーション座標系を作成	
		定義された座標系(水平と鉛直)でポイントをインポート	
		地図上で点を表示	
		ポイント名の変更	
	ポイントの単点観測	GNSSポール使用時のアンテナ高の入力	
		参照写真の追加(オプション)	
		説明の追加(オプション)	
	オートタグ検出	観測時間の変更	
		オートタグ(自動タグ)検出ワークフローでタイポイントを使用する	
ARポイント	オートタグ(自動タグ)検出ワークフローでポイントコレクションをインポートし、プロジェクトにGCPを使用する		
	AR設定	RTKデバイスが接続された状態で、AR(拡張現実)でポイントを表示する	ARポイントを使ってGCPを現場で簡単に探したり、キャプチャ中にラインをたどるために使用したりできます。(地下の公共施設、画像バスなど)
		ポイントとポイントの間に表示されるラインのオン/オフ	
ポイントラベルのオン/オフ			
PIX4D CLOUD AR	PIX4D CLOUD プロジェクトリスト	PIX4Dcloudプロジェクト一覧	AR(拡張現実)により、キャプチャ後のプロジェクトの視覚化が可能になり、地下埋設工事、設計データと施工の比較、プロジェクトの記録作成に最適です。
		プロジェクトをタイプ[サイトまたはデータセット]で絞り込む	
		プロジェクト名順、日付順	
	プロジェクトの検索		
ARディスプレイ	ARプロジェクトの透明度をスライダーで調整する		
	PIX4Dcloudレイヤーの表示とプロパティの確認		
RTK接続		RTK精度を表示(RTKに接続されていない場合、GPS受信強度が表示される)	お好みのRTKデバイスを使用し、RTK補正を受けることで、正確なジオロケーションを含むデータセットを得ることができます。
		PIX4Dcatchと互換性のあるRTKデバイスへの接続(viDoc、Emlid Reach RX、Trimble Catalyst DA2)	
		SPCまたはSPC+のケースを使用し、正しいハンドルを使用している場合、カメラオフセットを簡単に設定可能	
		手動でカメラオフセットを編集	
		NTRIP認証情報の入力	
		マウントポイントの選択	
		NTRIP受信座標系の選択	
エクスポート	プロジェクト	全データのエクスポート(ZIPファイル)	すべてのデータをエクスポートしてPIX4Dmaticでの処理や、個々にエクスポートすることもできます。
		GCPのポイントとマークのエクスポート	
		キャプチャした点群(PLYファイル)のエクスポート	
		キャプチャしたメッシュのエクスポート(OBJファイル)	
	ログのエクスポート		
単点観測のポイント	観測した座標のエクスポート(ZIPファイル)	観測したポイントのエクスポートしてデスクトップに保存したり、クラウドにアップロードしたり、サイトローカライズのWKTファイルのエクスポートして保存することでPIX4Dmaticでカスタム座標系のデータセットを処理できます。	
	サイトローカリゼーション座標系(WKTファイル)のエクスポート		
PIX4D CLOUD へのアップロード	一般	1つまたは複数のプロジェクトをアップロード	簡単、迅速、正確: PIX4DcatchのデータセットをPIX4Dcloudにアップロードし、処理後のプロジェクトを確認できます。特定の希望事項や成果物に合わせて処理設定をカスタマイズすることが可能です。
		プロジェクトを組織にアップロード	
		既存のサイトへのプロジェクトのアップロード、または新しいサイトの作成	
	処理オプション	DSMを生成する	
		オルソ画像を生成する	
		GCPおよび/またはMTPで処理	
		出力座標系を選択(投影座標系またはサイトローカライズ)	